

話し合いの仕方を身に付ける 低学年

題材	・・・ 「なかよししゅうかいをしよう」
ねらい	・・・ 友だちの考えを聞いたり、自分の考えをみんなの前で話すことができる
工夫点	・・・ まほうのマイク
準備	・・・ 意見発表用カード*ふりかえりカード

児童の活動

教師の支援と評価()

【事前の活動】	
帰りの会	「なかよししゅうかい」でどんなことをしたらよいか考える となりの友だちと考える (なかよし会議の準備) みんなの前で発表する練習をする
放課後	計画委員会の準備 司会の練習する
	<ul style="list-style-type: none"> ・本時に期待感もてるような言い方で意欲を高める ・「まほうのマイク」を使って、となりやまわりの友だちと考えを聞いたり、言ったりできるようにする ・「なにをしたらよいか」の考えを絵や文でカードに書き、話し合いに参加する準備をする ・まほうのマイクを使って楽しく活動している ・役割に取り組む意欲を賞賛する ・会の進行等はできることから取り組ませ、徐々に子どもに任せていく

【本時の活動】	
1 はじめの言葉 2 議題の確認 3 話し合い 何をするか 事前に準備した一人一人の考えを発表する 事前の活動で用意したカードを使ってみんなの前で全員が考えを発表する	<ul style="list-style-type: none"> ・事前の活動で準備した個々の考えをみんなの前ではっきり話せるよう個別に支援する ・カードを黒板に貼り、同じ意見やいろいろな意見を視覚的にとらえられるよう工夫する ・個々の意見を尊重し、みんなの合意で決定をしていく援助をする (P34参照) ・みんなの前で話すことができる ・友だちの発表を聞くことができる ・時期や実態に応じて一人一人に役割もてるような活動を工夫する
役割をどうするか 全員が役割をもち活動できるようにする やってみたい仕事に挑戦する	
4 決まったことの確認 5 先生の話 6 ふりかえりカード(P17)の記入 7 終わりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・「どの子ども自分の思いがみんなの前で話せた」ことを賞賛する ・みんなの思いを集めると楽しいことができそうだという次時への期待をもたせる

【事後の活動】	
帰りの会	役割ごとの準備など
学級活動	「なかよししゅうかい」を する かかりごとに仕事を進める
帰りの会	ふりかえりカードに感想を書く
	<ul style="list-style-type: none"> ・係ごとや個別に言葉かけをして仕事の進み具合を評価したり、支援したりする ・楽しく集会に参加している ・みんなの思いを集めて楽しい集会ができた喜びを賞賛し、次の活動へ意欲をもたせる

留意点 「なかよしになるために何をしたらよいか？」を一生懸命考え、「まほうのマイク」を使ってインタビュー形式で周囲の友だちと気軽に考えを言い合える雰囲気を作ること。「どの子ども思いをもち、思いを表せる。みんなの思いを自由に出し合う場が学級活動である」という意識を低学年のうちから育てることが大切である。それには、従来の一斉の話し合い活動の形式にとらわれず、個々の子どもが思いをもち、伝えられることに重点を置き、計画的に積み上げて指導することが大切である。子どもたちは自分たちで話し合った結果、楽しい集会ができたという達成感を感じ、次の活動への意欲もてる。

まほうのマイク

(Q & Aコーナー P 37 参照)

「手作りマイクを用意してインタビュー形式で質問したり、それに答えたりする」方法です。大勢の中でマイクを傾けられ話すことはプレッシャーになりますが、二人組や数人でマイクを傾け合うことは、楽しい活動となることが期待できます。楽しく活動する中でマイクを持つ人は「何を質問するか」マイクを向けられた人は「自分の考えを言う」という話し合いの基本形が身に付くのではないかと考えます。

学級の中で子どもたち一人一人がいつも「課題は何か」「自分はこんなふうに考える」という意識をもって学校生活が送れるとすばらしいと考えます。



* ふりかえりカード

なかよしかいぎカード
ねん くみ()

☆きょうの「なかよし かいぎ」はどうでしたか？ ☆
○をつけたり、おもったことをかいたりしてね！

☆ よくできた ◎ できた △ できなかった

① まほうのマイクで「なかよしかいぎ」のじゅんぴができたかな？	☆	◎	△
② てをあげてはっぴょうできたかな？	☆	◎	△
③ おおきなこえでいけんをいえたかな？	☆	◎	△
④ ともだちのいけんをしっかりきけたかな？	☆	◎	△
⑤ きまったことがたのしくできそうかな？	☆	◎	△
⑥ ほなしいのかんどうをかきましよう			

せんせいから

活動後のふり返りは、大事な活動です。低学年のうち「話せた」「言えた」「手をあげられた」という技能面が中心となりますが、学年が進むにつれて、主体的、意欲的な活動として、自己振り返りができるようになります。

学級活動ばかりでなく普段の学習習慣としても大事なことです。掲示物として活用してください

* 話し合いのマナー (低学年)

はなすとき きくとき
きをつけようね

☆あいての目を見て話そう	☆あいての目を見て聞こう
☆はっきり声をだして話そう	☆さいごまでしっかり聞こう
☆わかりやすく話そう	☆うなずいたりしながら聞こう

たいせつななかまと
なかよくほなしあおう

話し合いの仕方を身に付ける 中学年

題材	・・・ 「年組プレイランドをつくろう」
ねらい	・・・ 友だちの考えのよいところを認めたり、自分の考えを分かりやすく話すことができる
工夫点	・・・ ラベルトーク（班での考えをまとめて話す）
準備	・・・ 班で決めた遊びを紹介するカード

児童の活動

教師の支援と評価（ ）

【事前の活動】	
帰りの会	<p>班の話し合いで「みんなが楽しく遊べるおすすめ遊び」を考えることを知る</p> <p>計画委員の準備 (Q & Aコーナー P 33)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の議題を計画委員が予告しておく ・「我が家の秘伝の遊び教えます」等のかかけで話し合いへの意欲を高める ・家族に相談して教わるなどの助言をする ・本時の流れを確認しておく ・司会進行と議題提案の理由等練習をする ・学級の実態に合わせて子ども(計画委員)に任せる部分を徐々に増やしていく

【本時の活動】	
<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめのことば 2 学級の歌(実態に応じて) 3 議題と提案理由の説明 4 話し合いのめあての確認 5 話し合い 班での話し合い 班(4・5人)で遊びを出し合う、おすすめ遊びを一つ決める 遊びの名前や絵などをカードに書き、発表者を決めて遊びの説明や選んだ理由を発表できるようにする 班の発表 めあてにあった遊びかどうか質問する よりよい遊びにするための意見などを出し合う 班ごとの役割分担 6 決まったことの確認 7 先生の話 8 終わりのことば 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなで楽しく」という話し合いのめあてや話し合いの流れを掲示し、スムーズに活動できるようにする ・班での話し合いが活発に行えない場合はKJ法(Q & Aコーナー P 37)などを使って自由にたくさん意見が出せるように支援する ・班員の合意であるカードは協力して作成し、発表まで役割を分けて取り組めるよう話す(ラベルトーク) ・協力して作成できるカードを事前に用意しておく ・班の話し合いのしかたを生かして、一人一人の考えを大切にし、話し合いが進行するよう支援する 友だちの考えのよい点を認め、自分の考えを話すことができる。 ・班ごとに役割分担し、会を盛り上げられるよう支援する ・班での話し合いを中心に賞賛し、事後の活動への期待をふくらませる

【事後の活動】	
放課後	<p>全体の進行について準備する 班ごとの準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班の代表等で組織し、準備にあたる ・個々の活動を支援する
学級活動	<p>「年組プレイランド」実践</p> <p>役割に取り組み楽しく活動しているか</p>
帰りの会	<p>活動のふり返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の考えが集まり、協力して楽しい会ができたことを評価する

留意点 話し合いの進行を年度初めからしだいに子どもに任せていくよう計画的に指導できるとよい。子どもが主体的に活動することで、達成感、成就感が実感でき、次への活動の意欲となっていく。話し合いの場面では、班員の中で自分の考えを言ったり、友だちの考えを聞いたり、自由に話せる雰囲気の中から班としての考えをまとめていくことを体験を通して学び、全体の場で話すことへと段階を踏んで指導することが重要である。議題は「話し合いたい！」と思えるものを日々の生活から取り上げたり、子どもの発意を生かしたりすることが重要である。子どもたちが話し合う楽しさ、実践する喜びを心の中につなげていけるような計画的な指導が大切である。

班の話し合いの仕方

☆司会を決めましょう

☆時間を決めましょう

一人一人自分の
考えを発表する
(紙に書いてもよい)

自由に質問しながら
聞いたり、話したりする

1
考えを
分ける

考えをまとめる
ポイント3

3
班としての考えを
まとめる

2
それぞれの考え
の理由をはっきり
させておく

☆発表の
じゅんびをしましょう

班の意見の発表の仕方

☆発表者を決めましょう(こうたいでできるといいですね)

「わたしたちの班では、○○○・・・～という考えに
なりました」

「理由は○○・・・です。大事なことは・・・です」

「とくに言いたいことは・・・です」 など・・・

1
まず、決まった
ことをはっきり
伝える

分かりやすく
伝える
ポイント3

3
最後に
思ったことなど
付け加えても
いいですね

2
理由を短い文
にまとめて
話そう

☆あそびたらしく
すなおに話そう！

掲示物として活用してください

題材	・・・ 「学級の合い言葉をつくろう」
ねらい	・・・ 多くの友だちの考えを聞いて、解決方法を考え根拠をつけて話すことができる
工夫点	・・・ ジグソー学習（Q & Aコーナー P 39）
準備	・・・ アンケート・* 具体目標記入用紙

児童の活動

教師の支援と評価

【事前の活動】	
帰りの会	アンケートをする
放課後	計画委員会と本時の準備を行う アンケートを集計し掲示する
帰りの会	班ごとに合い言葉を考える アンケート集計から一人一人が 合い言葉に使いたいキーワード を抜き出し、まとめていっても よい

- ・学級目標の達成度や個々の学級への思い、一人一人が学級のことを考えられるような内容のアンケートを子どもと共に作成する学級のよい点に気付いているか
- ・子どもの認めている学級のよい点を全員で確認し、さらに、細かなよい気づきに対しても賞賛する
- ・実態に応じて、まず個人で考える 班としての考えをまとめる等ステップを踏んで一人一人の子どもの創意がだんだん束ねられていくようににする
- ・個々の考えを書く用紙を用意する

【本時の活動】	
1 はじめの言葉	計画委員会の活動は、子どもの実態に合わせて指導の部分を減らし、だんだん子どもに任せていくことを計画的にできるとよい
2 議題の確認・提案理由の説明 アンケート結果を使い、学級への意識を再確認する	
学級のよい点をさらに伸ばし、学級目標に近づく。 合い言葉を考え生活していくともっとよいクラスになるのではないか	
3 話し合い（ジグソー学習）（Q & A p 39） 各班の合い言葉を発表する 考えた理由を班で説明し、班員が分担で考えを聞きに行き自分の班で報告する。 班の中で他の班の考えのよい点を取り入れながら、考えをもう一度まとめる 各班の考えを理由を付けて発表する 各班の考えを全員で練りあげ、合い言葉を決定する	
4 決まったことの確認	
5 先生の話	
6 終わりの言葉	・提案理由の中から「もっといいクラスに」を取り上げ、話し合いのめあてとする ・ジグソー学習については事前に説明しておくときがスムーズに流れる ・友だちの考えをよく聞く習慣が形成される ・各班で考えた合い言葉のいろいろな意味（考え）にふれることで学級への思いを高められる 根拠を付けて考えを話すことができる ・十分な意見交流後の集団決定とする ・「もっといいクラス」をつくっていかうと話し合いに真剣に取り組めたことを賞賛する

【事後の活動】	
帰りの会	合い言葉にあった自分の行動目標をたてる
	自己評価・相互評価する

- ・合い言葉にあった個々の具体的行動目標がたてられているか支援する
- ・掲示物などで個々の取組の努力を評価できるよう工夫する

留意点 日頃の学習活動の中でどのくらい話し合う場面を経験しているかで、本時の学習の流れが大きく変わることが予想できる。意見を言う、理由も言う、友だちの意見を聞く、考えの根拠を理解する。このような活動の繰り返しで「話す」ことへの苦手意識を和らげ、どの子どもも話してみよう、という意欲付けの活動になると期待している。友だちの考えの根拠を聞く、それを自分の班に伝えるという活動（ジグソー学習）を通して、話し方、意見の言い方をどの子どもも身に付けられるように考えた。

< 授業実践例 >



< 5年生 10月 >

行事の多い2学期 10月後半、それまでの学級の取組をふり返り、がんばったこと・よかったことを自由作文した。クラス全員の「学級のいいところ」を計画委員が分類し模造紙に張り出した。(左写真) 同じような感想をまとめて「助け合う」「一つになる」「協力」「真剣」「がんばる」「まとまっている」「思いやり」「よく考える」などキーワードを考え、見出しとして書いた。帰りの会で、全員でがんばりやよさを確認し、後半もつとよいクラスを目指して、話し合い言葉をつくるという活動へつないだ。下図のカードを使い、みんなが考えたクラスのよいところのキーワードから合い言葉をひとりひとりが考え、理由も言えるように準備した。前ページの活動の流れで、個々に考えをもち、班で話し合い、全体で話し合いという手順で、全員の創意を束ねた合い言葉が下記のように完成した。「合い言葉」決定後、下記のカードに、合い言葉達成のための個々の行動目標を書き、教室の背面に大きく貼りだした。時間をかけ、みんなの考えを束ねた価値ある「合い言葉」を作成することができた。

自己評価カードから・・・
ぼくの「フレンドシップ」が入らなかったけど、とてもいい合い言葉になってよかった。(男子)



個人のアイデア



具体目標記入

